

きいちゃんの いきいき支え合い通信

この通信では、地域の「顔が見える」関係の中で、日常生活の困りごとを助け合い、支え合う活動が進むことを願い、生活支援に関する県内の先進事例等を発信していきます。



第19号

令和6年3月
和歌山県
長寿社会課

支え合い活動紹介

高野町「高野ふれ愛講 TSUNAG^{つなぐ} お助け隊」

高野町では第1層協議体の「高野ふれ愛講TSUNAG」が有償ボランティア「お助け隊」を立ち上げ、協議体メンバーが中心となって運営されています。今回、生活支援コーディネーターの上西さんと協議体メンバーのみなさんに「お助け隊」にかける想いと、「お助け隊」発足までの経緯を取材させていただきました。[詳細は次ページ](#)



第1層SC 上西さん

「お助け隊」にかける協議体メンバーの想い

「高野ふれ愛講 TSUNAG」では、メンバー全員が積極的に発言し、主体的に取り組を進められています。協議体として「お助け隊」を立ち上げられた理由や、今後の「お助け隊」にかける想いを伺いました。



「高野ふれ愛講 TSUNAG」
のみなさん

- やっと「お助け隊」を始動できた。「TSUNAG」の名のとおり、手と手をつなげられるような制度にしていきたい。
- 今までは「なんでも町がやってくれる」だったけど、今は「自分たちでやっていかなければならない」と考えたことで「お助け隊」を立ち上げられた。
- 人と人をつなぐのは喜んでもらえるし、自分の生きがいにもなる。今後ともまだまだ続けていきたい。
- 「自分らでなんとかせなあかん」と気持ちを切り替えてから動き出すことができた。もっとたくさんの方の困りごとを受け入れられるようにしていきたい。
- TSUNAGの認知度が上がってきて嬉しい。楽しみながら続けていきたい。

「お助けマン」の声

高野町消防署長の一柳さんは「お助けマン」に登録して約5か月。積極的に活動に参加されています。

登録のきっかけは「地域貢献したくてずっと機会を探していた。このお助け隊は恩着せがましくなく、自身も楽しく活動できるのが良いところ。」とのこと。活動の際には「作業をするだけで終わらず、必ず話をするようにしている。生活の様子を聞いたり、他の困りごとを聞いたり、10分は話し込みます。」と、見守りの役割もされていました。

また、「困りごとの情報収集をする人は聞き上手な人がよくて、助けに行く人はそれができる人がやればいい。両方が連携できていることで暮らしやすくなる。」と話されていました。



一柳さん

利用者の声

アパートの2階に住んでいる倉本さんは、ご夫婦とも90代となり階段を上り下りしてゴミ出しをすることが大変になったことで、「お助け隊」を複数回利用されています。

「お助け隊」を利用してみて「良い時代になったんだなあとびっくりした。でも自分でできることは自分でやることも大事。」と感じたそうです。

「お助け隊のおかげで住みやすいところになっている。頼れるところがあるから安心。不自由ない暮らしができています。」と感謝されていました。

さらに嬉しい報告がありました。「お助け隊」が来ているのを見かけた近所の方が「それぐらい捨ててあげるで」と声をかけてくれ、助けてもらっているそうです。SCの上西さんは「これが一番嬉しいことです。」と喜んでいました。



倉本さんご夫婦



「高野ふれ愛講 TSUNAG お助け隊」 立ち上げの経緯



令和元年度、SCの上西さんと協議体メンバーがまず始めに取り組んだことはアンケート調査でした。調査方法は、自治会を通じての全戸配布です。

調査の結果、ニーズやシーズの詳細が整理でき、町内には「手助けできる人」が124名、「手助けしてほしい人」が70名いることがわかったのですが、さらに追加の調査として、「手助けしてほしい人」の本音のニーズを聞き取るために、協議体メンバーが訪問による聞き取りを実施しました。

実際に「手助けしてほしい人」を訪問して聞き取りしてみると、アンケート調査の回答と実態が大きく違ったということです。

モデル事業実施後は、内容の検討や課題を解決するために協議を重ねましたが、完璧なものを求めすぎて時間を要すことになりました。そこで、令和3年度から令和4年度にかけては、県生活支援専門アドバイザー派遣事業を活用し、改めてSCと行政、協議体メンバーで「目指す地域像の共有」に取り組みました。

バラバラだった皆の想いが一つになったことで、スムーズに活動理念を定め、チームとして協議体の名称を決定しました。

また、年に数回だった協議体会議が、自然と毎月開催になりました。そして、「まずは行動に移してみよう！」という

考えになったことで、「お助け隊」立ち上げへ再始動するきっかけとなったこのことです。

高野ふれ愛講TSUNAG活動理念

『住み慣れた高野町で最期まで自分らしく暮らし続けるために』
※自分のやりたいことが人のためになるという活動を広めます。
※他人事ではなく、我が事として気にかける関係を広めます。
※顔の見える関係を広めふれあいの関係を広めます。
※みんなができる事をできる範囲で担うことで、互いに助け合いを広めます。

「助け合いの仕組みづくりアンケート」を実施

を実施

「モデル事業」を実施

改めて規範的統合を行う

「高野ふれ愛講 TSUNAG お助け隊」が発足

が発足

「お助けマン懇談会」の開催

アンケート調査を踏まえ、「できることからやってみよう」と次に取り掛かったことはモデル事業の実施です。

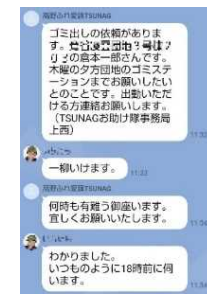
町の中心部と山間部でニーズの種類が違っていたため、モデル事業は中心部と山間部に分けて2回実施。

利用者からは「この仕組みは助かる。早く立ち上げてほしい。」と要望がとても多く、この声に立ち上げを後押しされたそうです。

ココがすごい!

「高野ふれ愛講 TSUNAG お助け隊」は令和5年8月に発足しました。発足当初の「お助けマン」は40名。多くの方に登録してもらえた理由としては、アンケートの「手助けできる人」についても協議体メンバーが個別訪問した結果とのことです。

「お助け隊」の特徴として、連絡手段にLINEを活用しています。電話連絡とは違い、事務局の手間を省け、「お助けマン」も文字で確認するのが便利だそうです。



LINEでのやりとり

「お助けマン」を対象に「お助けマン懇談会」を開催!

懇談会は以下の目的で実施しており、多くの方に参加してもらえるよう、中心部と山間部の2か所で、昼の部と夜の部に分けて開催しています。

- ・積極的に活動している人の経験を「お助けマン」全体で共有したい。
- ・「お助けマン」が聞いてきた利用者の状況のニーズ等を全体で共有し、ニーズに合ったメニューを皆で検討し改善していきたい。
- ・「お助けマン」が聞いてきた地域の様子を全体で共有したい。
- ・今後も続けることで「お助けマン」にアンテナ役になってもらいたい。

ココがすごい!



懇談会の様子